

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2571500194		
法人名	株式会社 ドリエジヨ		
事業所名	ゆめさと グループホーム		
所在地	滋賀県蒲生郡日野町西大路大字井上434-2		
自己評価作成日	平成29年 7月 1日	評価結果市町村受理日	平成29年8月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク滋賀福祉センター		
所在地	滋賀県大津市和邇中浜432番地 平和堂和邇2階		
訪問調査日	平成29年7月25日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所では、デイサービス・福祉用具・看護師との連携を図り入居者様のケアに取り組んでいる。日々の生活の中で、入居者様の個々の状況に応じたケアを心掛け、入居者様希望を聞きながら、行事・外出等もを行っている。その中で入居者様と共に楽しく過ごせる環境作りを行っている。医療面では、嘱託医・看護師と24時間の連絡体制をとり、対応をしている。認知症の専門医や地域の医療機関とも連携している。スタッフの勤務体制も年齢的・身体的・精神的に負担とならないようにできる限り工夫し、楽しく働ける体制作りにも努めている。入居者様と日々接する中で、業務優先・リスク回避に促われず、本人様の思いを尊重し、共に楽しむことを大切にしている。家族様に対しても、月に一度、状況を手紙で報告し、面会に来ていただいた際に説明を行っている。家族様に参加して頂ける行事等を実施し、共に入居者様を支えて頂ける信頼関係が築けるよう取り組んでいる。今後も、入居者様・家族様等との信頼関係を深くし、より良いケアが提供できるように、体制の見直し・スタッフの意識向上に努め、サービスの向上に努めていきたい。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

14年前、地域の高齢者福祉貢献の必要性を強く感じ開設した事業所である。鈴鹿山系の麓、緑豊かな広々とした地に施設がある。利用者はゆったりとした個性ある生活を楽しんでいる。職員は平均年齢も若くフアイト溢れ、笑顔を絶やさず利用者、家族から好感を得ている。事業所の理念である「主役は利用者」を常に意識し利用者の希望を取り入れ個性を活かす介護に取り組んでいる。地域の幼稚園、小学校と交流も多く、地域の大祭である日野祭りや文化祭に職員、利用者共々参加、展示品も出展し地域との繋がりを深める努力をしている。医療面では嘱託医、看護師と連携し24時間体制で利用者の健康管理をしている。医療連携体制加算事業所として重度化した場合にも対応できる事業所方針を持ち、それを実践し看取りケアも多く経験している。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全てのスタッフが共有できていない部分もあるが、ミーティング等、話し合いの場を設け、実践につなげている。	玄関の壁に地域密着も含めた理念が掲げている。月1度のミーティングで理念の共有、徹底を図っているが、新入職員もおり全職員共有できていないと言えない。	全職員が必ず取り扱う勤務表等を活用し、その用紙の一部に事業所の理念を書入れるなどして理解を深める工夫などを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に出来る限り参加し、交流ができるように心がけている。また、朝食は地域のお店で手づくりの物を配達して頂き、地域とのつながりを大切にしている。	地域の祭り等の行事に利用者、職員共々参加している。近隣の幼稚園、小学校とも交流を深め、運動会、音楽祭等行き来している。事業所の秋まつりは地域の人々の協力を得て開催し、多くの参加者で楽しんでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所内のスタッフが、地域の方からの依頼等により、勉強会を行っている。また、キャラバンメイトの研修を通じ、地域の方の理解に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	民生委員の方に参加して頂き、2カ月に1度実施している。入居者様の状況報告、地域の高齢者の方の状況等、様々な意見を頂いている。	2ヶ月に1度区長、民生委員、町の支援課、家族代表等で開催し、事業所の現状や利用者の高齢化等事業所の抱える課題解決に向けて話し合い前向きな会議にしている。今回から地域消防訓練に参加することも決定している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事業所の状況を報告し、グループホーム対象の方の受け入れ等、役場・民生委員の方にも協力を頂いている。	日頃から事業所の状況報告や利用者へのケアサービスの取り組みを相談し、町の介護支援課の協力を得ている。市側から認知症に関する講演の依頼や認知症カフェの創設に向けてバックアップの求めに応じている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	安全面を考慮し、やむを得ない部分もあるが、ケアを考える際、スタッフで話し合い、出来るかぎり身体拘束をしないケアに努めている。	身体拘束禁止について内部研修会を行い、ミーティング時にテーマとして取り上げ、具体的な内容を話し合い拘束について理解を深めている。夜間を除き玄関は施錠していない。外出希望者には職員が付き添うようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止についての勉強会は行っていないが、日々の業務・ミーティング島で話し合い、虐待のないケアに勤めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度について学ぶ機会は設けてられていないが、後見人制度を利用しておられる方もおられ、役場を通じ、制度利用を始められる方もおられる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、家族様に説明する機会を設け、契約前に説明・話し合いの場を設けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族交流会の際に家族様から意見を聞いている。また、面会時にも意見・要望を伝えて頂けるように声をかけ、必要に応じ、スタッフの間で話し合いを行っている。	家族会が年2回あり、事業所の行事終了後に家族交流会も行い、家族の意見、提案を聞き入れている。意見を反映した例として出入り口の改善を図ったり、職員の顔写真と名前を大きく張り出すようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング・リーダー会議・日々の業務の中で、スタッフの意見を聞き、内容に応じ経営会・所長と話し合いを行っている。	日常の会話の中での意見交換もあるが、月1回のミーティング時に意見や提案を汲み取っている。最近の提案で配食を減らし、入居者の希望する手作り食事、例えばバーベキュー等を増やしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の勤務状況・努力等を把握し、やりがいをもって働けるように、必要に応じ話し合い、取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	なかなか研修の実施・参加は難しい部分もあるが、参加できるときは個々のスタッフの状況を踏まえ、参加してもらえるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的なグループホーム部会への参加、地域の福祉事業所の集まり等に参加し、意見交換等を行い、学ぶ場を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居申し込みを頂いてから、入居までの間に本人様の状態を見に行かせて頂き、話を聞くようにしている。また、入居後も不安に思っておられる事等に耳を傾け、安心して頂けるよう関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面接時に、家族の方の思い・要望を聞き、安心してサービスを受けて頂けるように説明・話し合いの場を設けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居申し込みに来られた際に、本人様の状況を確認し、その方に必要なサービスを考慮し、対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で、入居者様に助けてもらう事、教えてもらうことも多くある。また、一緒に楽しく生活が送れるように取り組んでいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族交流会や、家族様に参加して頂く行事を行い、家族様と本人様の関係を大切にしている、家族様にしかできないケアもあり、協力して頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会等、基本的には制限をしておらず、自由に着て頂いている。地域の行事等に参加し、馴染みの方と出会う事もある、	地域の行事に出来る限り出かけて行き友人、知人に出会えるよう支援している。同敷地内のディサービスの利用者との連携も取り交流の場を作るよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様の状況により、難しい部分もあるが、双方の良い関係を保てるように、スタッフが間に入り、支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も相談に来られる方もおられ、必要に応じ、対応している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意思疎通が可能な方には、本人様の希望・思いを尊重しケアを行っている。意思疎通が困難な方は、家族様と相談し、過ごしやすい環境を提供できるように対応をしている。	年々、高齢化が進み、本人の希望、意向をはっきりと言える利用者が少なくなっている。日常の会話や、仕草から読み取ることを重視している。家族と相談を密にして意見意向を取り入れている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居面接時に、本人様・ケアマネ・家族様より、本人様に関する情報を得ており、経過の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の過ごし方、身体面・精神面等、個々の記録に記入し、他のスタッフとの情報交換により、現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	面会時に家族様と話し合い、ミーティングの際、スタッフと話し合い、それに基づいてケアプランを作成している。	月1回のミーティング時の職員の意見や、各種記録のデータを基に本人や家族、医師の意見を参考に3ヶ月毎に介護計画を見直し、家族の署名捺印を貰っている。状況に変化があればその都度作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の記録を定期的にまとめ、本人様の状態を把握しており、毎月、カンファレンス島等で話し合っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々本人様の身体面・精神面に応じたケアを提供できるよう、必要に応じ、相談・対応を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事の参加・小学校・保育園との交流を行っている。また、地域のお店にも協力をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人様・家族様の希望により、入居前の主治医を継続しておられる方もある。本人様の状況に合わせ、主治医と相談し、病院受診も行っている。	かかりつけ医への受診2人(内科と精神科各1人)に月1回送迎支援している。受診内容は家族に連絡するとともに看護師及び嘱託医と共有している。他の利用者は提携医を受診し、往診は嘱託医が月1回行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状態の変化、転倒された際等、看護師に相談・報告し、指示を仰ぎ、適切な対応ができるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者が入院された際、定期的にお見舞いに行き、看護師・地域連携室の方から、本人様の状況を聞いている。また、早期退院に向け、話し合い・対応を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、重度化に向けた対応について説明し、同意を得ている。状況に応じ、家族様・主治医・スタッフで話し合い、方針を決めている。	重度化や終末期のあり方については入居時の契約書に明記し、重度化に至った場合も家族と話し合い同意書を交わしている。ターミナルケアのマニュアルを作成し過去2年間に2人の看取りを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応について、話し合いの場を設け、スタッフ全員が対応できるように取り組んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な避難訓練の実施を行っている。また、地域の防災訓練にも参加予定であり、地域のかたにも協力して頂けるように取り組んでいる。	年2回の避難訓練(1回は夜間想定)を事業所の防火責任者の指示のもとで行っている。消防署の立ち合いや地域の協力体制についてはできていない。	避難訓練に消防署の立ち合いと地域との協力体制の構築に向けた取り組み強化に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の人柄、個性に応じた声かけ、対応を行っている。	入居者に対し人生の先輩として敬う気持ちで言葉使いなど気を付けて接している。プライバシー保護の考え方や実践について研修会に参加し、職員間で共有している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活・会話の中で本人様が思いを伝えられるように対応をしている。また、自身で選んで頂いてけるような場を作っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り、本人様のペースで生活を送って頂けるよう、業務中心ではなく、入居者様の希望にそって支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で服を選んで着ておられる方もあり、外出・行事の際には、お化粧をする等、おしゃれして頂けるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の状況に応じた食事提供を行っている。また、一緒に食事準備・片付け等、出来る事をして頂いている。外食等も楽しみにしておられる。	主食以外は配色サービスを利用し盛り付け配膳や片付けをし、食事介助支援(5名)を行っている。月4回、個々の体調や好みに合わせた自前調理提供している。2カ月に1回程度、好みを聞いて外食支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量等、個々に記録し、把握している。体調により、食事量の減少が見られた際は、食べやすいもの・好まれるものを提供し、対応をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後は出来ていないが、夕食後、うがい出来る方はハミガキ、入れ歯洗浄を行い、清潔の保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表により、排泄パターンを把握し、トイレの声かけや、定期的なトイレ誘導を行い、自力での排泄支援に取り組んでいる。	入居者の排泄チェック表を作成し日々の習慣を把握(排泄介護11名)している。紙おむつの利用者にも声掛けや誘導により、トイレで排泄できるよう支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量の把握・乳製品の摂取により、出来る限り、自然排便が出来るように取り組んでいる。必要に応じ、医師と相談し、薬を処方して頂いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	スタッフの人数の都合上、一人ひとりの希望のタイミングでの入浴は、困難であるが、ゆっくりと入浴して頂けるようにケアを行っている。	希望に合わせて楽しく入浴出来るようゆず湯や入浴剤等工夫して週に2~3回、の入浴支援をしている。機械入浴の必要な5名の方は併設のデイサービスで介助入浴できるように協力体制を築いている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安心して休んで頂けるよう、ベットか布団、どちらが良いか状況に応じ変更している。また、なかなか眠れない方は、原因を模索し改善できるように取り組んでいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容等、スタッフ一人ひとりが把握できるよう、ファイルに閉じている。また、服薬変更があれば、経過を追い、受診の際に医師に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力・好みに応じ役割を作っている。また、日々の日課としてされる方のおられ、楽しく過ごして頂けるように配慮している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日すぐに対応するのは、困難な部分もあるが、日々の会話の中で希望等を聞き、外出先等、決めている。また、家族様にも協力を得ている。	日常的には施設の周囲を散歩したり畑で野菜づくりもしている。近所の店に週1回程度は一緒に買い物に出掛けている。春、秋、祭り、など季節を感じる時期・行事に合わせてマイクロバスで外出支援している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には、金庫で預かっているが、自分で持っておられる方もある。外出時、スタッフ共に支払って頂く等、行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人様の希望により、電話を使用される方、家族様へ手紙を書かれ方もあり、継続できるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じて頂けるよう、入居者様と一緒に飾りを作ったり、花を植える等、取り組んでいる。	玄関には季節感のある花を飾り、食堂は天井も高く木造建築の特徴を生かした気持ちの良い雰囲気になっている。貼り絵でカレンダーを作ったり、写真をモザイクにして飾っている。トイレや浴室など共有空間は清潔に保たれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	2ユニットに分かれており、ゆったりと穏やかに過ごして頂けるよう工夫している。また、居室にテレビを置いておられる方もあり、思い思いに過ごして頂けるように努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に自宅で利用されていた家具を持参される方もあり、出来る限り自宅での生活に近付けるよう環境づくりに取り組んでいる。	居室はフローリングの洋室と畳の和室が半々設置されている。エアコン、洗面所、小ダンスを備え、窓は大きく明るい居室である。家族の写真など入居者の好みの飾りつけをしている。家族が泊まるスペースを有している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内は自由に動いて頂けるようにしている。以前は、段差があった居間をフローリングに改装し、安全面にも配慮している。		

## 2 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	理念をスタッフ間で共有し、理念をふまえてサービスの実施に繋げていく。	全職員が理念を理解、共有したうえでのサービスの提供。	・勤務表に基本理念を入れ、常にスタッフの目につくようにする。 ・玄関に分かりやすいように基本理念を設置する。 ・ミーティング等で、理念について話し合いの場をもち、理解を深める。	12ヶ月
2	35	消防署、地域住民との協力体制の強化。	避難訓練に、消防署、地域住民の方にも参加して頂き、安全のための協力体制を作る。	・地域住民との緊急時の協力要請の依頼。 ・消防署へ避難訓練の指導要請。 ・地域の避難訓練の参加により、関係作りを行う。 ・地域住民、消防署と協力体制を作り、避難訓練を実施。	12ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。